

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500080		
法人名	有限会社 花水木		
事業所名	グループホーム ジョイナス		
所在地	福岡県宮若市本城720番地		
自己評価作成日	平成27年3月7日	評価結果確定日	平成28年4月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ●食は命の源。食べる元気は生きる元気。毎日楽しんでいただけるように工夫しています。 ●体調に問題のない日は毎日入浴が基本です。主に午前中はリハビリや散歩など、体を動かすことを中心に行い、午後はレクリエーションのあとに入浴を楽しんでいただいています。 ●今日できることが明日もできるよう。できないことが、少しずつできるよう。身体機能の活性化に積極的に取り組んでいます。また、季節を体感することで、感性機能が活性化するようなレクリエーションや外出を行っています。 ●ケアについて日々見直しをおこない、現状に満足しない支援をめざしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設以来、毎朝理念を唱和し入居者の笑顔や感動に繋げるケアに取り組んでいる。地域敬老会で今年も最高齢の入居者が花束の贈呈を受けられ、ホームの餅つき大会や忘年会等は地域の方々との交流が継続している。年老いて病気になるも身ざれい美味しく物を食べて自分らしく過ごして欲しいと、毎日の入浴や散歩を支援したり、入居時はミキサー食だった方が食を大切にしたいケアで普通食が食べれるまでになっている。個別のケアや介護の在り方を、月1回ミーティングで時間がオーバーする程の活発な意見交換の成果である。今後も運営推進会議で率直な意見や情報を交換しながら、理念のさらなる具現化が期待出来るホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホーム ジョイナス**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分の人生の最後まで小さな発見や感動があり続け、社会と共に生きていく。そのつなぎ手となるうとする理念を共有するため、理念を見やすいところに掲げ、仕事の始まりに確認している。	毎朝理念を唱和し、入居者の笑顔や感動に繋げるケアに取り組んでいる。入居者の顔色や表情・仕草などの見守りや観察を気づきや発見につなげ、感動ある1日を共に生きる支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組合に入っており、敬老会への参加や、空き缶拾い、公民館清掃などにも参加している。また、近所のコンビニにも歩いて出かけ、店員さんと挨拶を交わしたり、週1回、近隣のかたと手芸などを通して交流をもっている。年末には近隣の方たちをお呼びして餅つき・忘年会をおこなっている。	恒例の地域敬老会には全入居者で参加し、今年も最高齢の入居者に、花束が贈呈された。餅つき大会での餅を近所に配ったり、忘年会では近隣の方も一緒に余興を楽しんでいる。毎朝の散歩時の挨拶や、季節の野菜の差し入れなど、日頃から相互の交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域においてキャラバンメイトの活動などをおこない、認知症の理解や支援を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族のかた、地域の民生委員・自治会長にも参加をいただき、利用者の状況報告や職員の研修報告・行事の案内のほかホームの食事を体験して意見をいただいたりして、サービスの向上に活かしている。	地域や家族の代表者等の参加で会議が開催され、率直な意見や地域との情報交換の場になっている。行事や研修報告に熱心な質問があったり、支援に苦慮する事例報告には「もっと話を聞く事でその方が変わるのではないですか」等の意見を受けて、ケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などに参加していただき、事業所の状況やサービスの取組みを伝えるようにしている。書類関係や研修などに関しても協力体制をとり、連携を深めている。	開所以来、困ったことやわからないことは相談して助言を受けたり、現状を伝える等の関係を構築している。また介護ロボットのなどの新しい情報の発信も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を確認し、利用者様一人ひとりのその日の気分などを、きめ細かくチェックすることで、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。また管理者はすでに研修済みであり、職員にも受講の機会を与え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者、実践者其々が研修を受け、全職員に伝達講習をしている。息子が来たと1階へ降りようとする入居者には、その都度話を聞いたり一緒に散歩をしている。ベットから転落した入居者の対応をミーティングで話し合い、家族の了解を得て、ベット柵を2個設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待認識のための基礎知識の資料を、職員全員に配布し、ミーティングの中で読み合わせ確認を行い、常に虐待が見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度については、パンフレットなどを窓口に用意し、相談できる窓口の紹介ができるようにしている。また職員にはミーティングなどでパンフレットを配り、勉強の機会を持つようにしている。	親族が高齢になり、入院等の状況から金銭管理が難しくなった入居者が、昨年より成年後見制度を活用している。毎月の支払いやお小遣い等の確認の為に来訪する後見人と、良い関係が築けるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書などで事業所でできること、できないこと、また事業所のケアに関する考え方や取組についても十分に説明している。利用者や家族のかたの話をよく傾聴し、納得していただいているからの契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人や家族のかたが、意見や思いを伝えられる雰囲気づくりを心掛けている。出された意見や苦情については速やかにミーティングで、話し合い対応できるようにしている。	四季折々の行事や誕生会の様子を掲載したジョイナス通信や個々の入居者を収録したDVDは、家族に喜ばれている。また、小さな変化もその都度連絡したり、行事等の機会を通して家族の意見や思いを伺うなど、良い関係づくりに努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや随時の個別面談など、職員の意見や要望を聴くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、問いかけ、聴きだしたりするようにしている。	月1回のミーティングは、業務の見直しや個別のケアや介護の在り方について時間をオーバーする程活発な意見交換が出されている。従来の業務日誌やバイタルチェック表を使いやすく改善したり、日々の問題はその都度検討し、対処している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備をしている。 開設から、社会保険労務士と契約して、職場環境条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	正社員も短時間社員も分け隔てなくチームの一員として、働いてもらっている。研修・ミーティングにも参加して、職員の質の向上に向けた育成ができるよう計画している。また、資格取得のための勉強会には、積極的な後押しをしている。	共用空間壁面の作品の制作を任せられた入居3年目の職員は、家族や入居者の喜びや感動が制作の意欲に繋がっている。管理者は資格取得を後押しするために、研修や希望休に対応するシフトを組み、畳を敷いた休憩室で交替で昼休みが取れるなどの働きやすい職場環境で、ここ1年は離職者もない。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者・管理者は協議会の研修参加で啓発活動に取り組んでいる。 また、職員も研修会等参加で人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	地域同業者協議会の人権研修や、他の施設での研修会にも意欲的に参加している。どんな言葉使いや声の掛け方が入居者の人権を損なうのかを検討する等、人権を意識した啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は年間に行われる外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じて、なるべく多くの職員が受講できる計画をたてている。またそれらの研修報告は、レポートにまとめてもらい、全職員が閲覧できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者でつくっている協議会に参加し、勉強会・研修会などで情報交換、交流をおこなっている。また、近隣の事業所と合同での行事なども計画している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するように努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようと工夫している。傾聴の姿勢で話しやすい雰囲気づくりをこころ掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご本人のサービス利用状況や、ご家族のご苦労など経緯についてゆっくりと聴き、ご家族の方が何を希望されているかまた、不安に対してできることはすぐに実行、対策を考えるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況などを確認し、改善に向けた支援の提案や、相談を繰り返すなかで信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげられるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。 洗濯物を一緒にたたんでいただいたり、お掃除を共にしていただいたり、お茶碗洗い、拭きなどそれぞれに役割をもたれている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が気を使うことのないように気配りしながら、面会に来られた時などに会話を心掛け、相談できる立場、雰囲気づくりに留意している。また本人様を共に支えていくことを大切に、本人様とご家族の絆を第一に考え、程よい関係が保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の知人や友人、また家族親類などにいつでも来ていただけるような、明るいホームを目指している。また面会の方と居室内でお茶やおやつを共に食べられることもある。利用者の方が自分の自宅に招いた気持ちになっていただけるような雰囲気づくりを心掛けている。	家族や馴染みになったボランティア、地域の方々に花火大会や餅つき大会、忘年会を案内し、共に過ごす時間を大切にしている。また美容室や墓参りへの外出を支援したり、遠方の家族には連絡を密にして、其々の関係が途切れない支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員が共有して、毎日のお茶や食事、レクリエーションの時間は、職員も一緒に会話を持つようにしたりして、利用者同士の関係が円滑にいくように配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様ご家族にも相談など支援を心掛けている。また入院退居となった利用者様のお見舞いにもでかけ、声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話をじっくり聞きながら心身の状況を把握しようと努めている。コミュニケーションをとることが難しい方は、家族と話したり、本人様の少しの表情の変化に気をつけ、気持ちを理解するように努めている。	入浴は、入居者が昔の事や家族のこと等色々な思いを話されることが多い時間のため、ゆっくり聞けるようにしている。また明るいムードメーカーのような方や洗濯物を畳んだり食器拭き等、其々の入居者の出来ることや意向を支援して、さらなる思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などをじっくりと聴き、本人の全体像を理解するよう努めている。その際には本人の過去や大切にしていることに触れる、という自覚を持ち、本人のケアに活かすという目的をもって聞いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりの中から一人ひとりの一日の過ごし方、生活リズムを理解するとともにできないことより、できることに注目するようし、その全体像の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に日頃の関わりの中で思いや意見を聴き、プランの見直しを行っている。モニタリングは担当職員を中心に評価を行い、現状に沿った介護計画を作成し、本人と家族の同意を得るようにしている。	入居時にはミキサー食しか食べられなかった方が、食を大切にケアの積み重ねで、刻み食から次には普通食を食べられるまでに回復されている。毎月担当者が実施するモニタリングで、状態の変化に応じて留意点が記載され、その人らしさや笑顔が見える介護計画を作成し、日々発見し感動のあるケアが実践されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等身体状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉などを記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにして情報の共有をしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて本人の意見や家族との相談、ほかの事業所の意見を聴きながら支援している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政・地域の民生委員の方との交流により、地域資源の把握に努め、本人に必要なサービスを利用できるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には事業所の協力医のほか、かかりつけ医や希望する医療機関があれば、家族と利用者を確認をおこない、適切な医療を受けられるよう支援している。また訪問診療に来てもらうケースもあり複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	定期的な訪問診療や訪問看護による24時間緊急対応の体制があり、適切な医療が受けられるよう支援している。ホーム前にはかかりつけ医のクリニックや専門医もあり、家族の協力で受診が出来ている。また専門医療機関の受診は、連絡帳を使って状態の把握に努めている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2度看護師による往診で利用者の健康管理を行い、状態の変化に応じた支援ができるようにしている。また看護師の訪問のない日も、体調変化など些細な事で気付いたことがあれば、すぐに報告し、迅速な対応をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関あてに情報提供書を作成し、利用者の心身の状態やホームでの生活状況などを報告している。退院時には医療機関より、看護サマリーを提供してもらい、医療経過を把握するようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向をふまえ、意志、職員が連携を取り、安心して納得した最期を迎えられるように、意志を確認しながら取り組んでいる。	入居時看取り指針を説明しているが、状態の変化に応じて家族の意向に沿った支援に努めている。現在は、入居者に何かあれば救急車で医療機関へ搬送することで、家族の了解を得ている。看取りの経験はないが今後は更に職員で研鑽を積み、医療機関との綿密な連携体制を整えていく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署が行う救命講習に順に参加し、応急手当や対応についての訓練を受けている。また、ホーム内にも急変や事故発生時に備えマニュアルを置いて、いつでも対応できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年2回行うようにしている。地域の協力体制については、組合でお願いしたり、運営推進会議で協力をお願いしている。	昨年12月の避難訓練は、入居者全員を怪我や事故なく避難誘導する緊張感のある訓練となった。消防署からは、ありとあらゆるものを使って避難誘導をして下さいと指導を受けている。緊急連絡網の作成や備蓄も整備している。	緊急連絡網に一齐送信システムを活用した夜間訓練や、地域の理解や協力により実践的な訓練を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何よりも利用者様の「尊厳」を大事にしている。一人ひとりを人生の先輩として敬い、言葉や接する態度も配慮している。また排泄時なども羞恥心や誇りを傷つけることのないように支援している。利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、その個別性や守秘義務について十分理解し、責任ある取り扱いと管理を徹底している。	馴れ馴れしい言葉使いや態度に注意し、日頃は苗字で声掛けをしているが、個人的な話では親しみのある愛称を使うこともある。トイレや居室での排泄時には必ずドアを閉めて、羞恥心やプライバシーに配慮している。周囲を明るくしたり、他者の良さが理解できる入居者の姿に、人生の先輩として尊敬の念を持ち、学びを頂いている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いを表しやすいような環境づくりを心掛け、スタッフは常に傾聴の姿勢をとっている。また言葉だけでなく、しぐさや表情などにも気を配っている。声掛けについても自己決定へとつなげられるように配慮し支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調やその時の気分にも配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時には、基本的にはご自分でその日の服を選んでいただくようにしている。ときに、ご自分で口紅をひかれる方もあり、入浴後には皆様に化粧水を付けていただいている。カットはは約月1回、理容師に来てもらい行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ボードにメニューを書き料理の説明をして興味が湧くように工夫し、また食事の時間はテレビを切り、やさしい音楽を流し、時間のかかる方にも安心してゆっくり最後まで食事が出来るよう支援している。体調を見ながら、片付けの手伝いをお願いし共に行っている。	食は命の源・食べるは生きる元気と、日頃から食卓に塗りのお盆を使ったり弁当にする等、毎日美味しく楽しめる工夫がされている。調査日は壁一面に咲く桜画を見ながら「今日は花見弁当やね」と食事をして、食後にはテーブルを拭いたり食器拭きを楽しそうにされる入居者の姿があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と水分摂取量・食事摂取量を記録し、状態を把握している。嚥下状態には特に気をつけ、状態に応じて軟らか食、刻み食などに変えるなど工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は声掛け見守りをし、できない方に関しては毎食後のケアを支援し、口腔内の衛生や嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、トイレへと声掛け誘導介助を行っている。介助方法については個別の支援方法を職員全員が把握している。排泄に失敗を極力減らし、トイレでの排泄が出来るように支援している。	老いて失禁は当たり前と、失敗があってもさり気ない対応を心掛けている。其々の排泄パターンに沿って、基本は出来るだけオムツをしない方針で支援している。昼間は全員をトイレに誘導し、夜間は面倒とパットを使用の入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人個人の水分チェック表を作成し、水分補給に取り組み、またホームで出来る適度な運動などで便秘の予防に努めている。医師、看護師との連携で排便の調整をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調やその日の気分などにも気を付けながら、基本的に毎日入浴していただいている。一度目の声掛けで拒否があっても、時間をおいて違う声かけを試みるなど工夫をし、お風呂を楽しんでいただいている。	清潔で気持ちよく生活して頂きたいと、毎日の入浴や2日に1回の全更衣を支援している。入浴の順番がいつも最後で「ヘソが曲がった」と怒って拒否する入居者には、時間をおいて声掛けをする等の工夫をしている。浴室は個浴で清掃が行き届いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときは、いつもより詳細な記録をとるようにして薬を管理し、誤薬や飲み残しのないように確認に気を付けている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。外出時や行事など、また、希望があればお酒を出すこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気やその日の体調に応じて、日常的に散歩に出かけている。また、時には散歩の帰りに、近くのコンビニによって、自分の好きなものを買って頂いている。少し遠くに出かけるときには、下見をしてトイレなどの確認をおこない、不安のない外出を支援している。	ホーム周辺の散歩が日課となり、調査日も「今日は天気が良いので散歩に行ってきます」と元気に出かけ、袋いっぱいつくしを摘んで帰ってこられた。桜・藤・コスモス・菊等季節の花見を年間で計画し、ドライブを兼ねて出かける等、楽しみを支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分でお持ちの利用者もおられる。家族よりお金を預かり、事務所が管理している人でも、外出時の買い物訓練などではお金を持たいただき、レジに並んでいただくこともある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があるときは、電話をかけていただいている。ご家族の電話も取り次ぎ、本人が安心されるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は、天井を高くとり十分な採光を取り入れ、ゆっくりとした空間になっている。また、広い壁を利用し、利用者、職員共同で、季節感のある絵や飾りつけをしている。窓際やカウンター・テーブル・トイレなどに花などの植物をおき、食事時にはTVではなく、やさしい音楽を流している。	天井が高く、明るく広い共用空間の白い壁一面には入居者との共同作品の桜の大木をモチーフにした画が飾られ、家族や訪問者から感動の声が上がっている。窓辺のソファや中央のテーブルで手伝いをしたり、寛ぐ入居者の姿がある。トイレや浴室なども清掃や空調が管理されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には、ゆったりとしたソファを置き、絵画や花を飾り、居心地の良い空間づくりに配慮し、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士がくつろげるスペースがある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には広いクローゼットを備え、馴染のものができるだけ持ってこれるようにしている。居室にもタンスや写真など、思い出のある品物が持ち込まれ居心地のよい雰囲気づくりを心掛けている。	室内は備え付けのクローゼットを活用して整理整頓がされ、自宅から持ち込んだ馴染みの家具やソファなどが置かれている。壁には家族写真や本人の好きな絵やジャーニーズの写真等が掲示され、その人らしさが見える居心地の良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者様が自立した生活が送れるよう、必要な場所には手すりを設置したり、安全に暮らせるよう配慮している。利用者一人ひとりの「わかるから」を見極め、物の配置などに配慮している。		